

2. 評価結果報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームが一大家族として地域の中にとけ込んで暮らしてゆこうとする、独自の理念は、職員、利用者とともに作り上げられている		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を共有できるようミーティングでとりあげ、実践に向けて話し合っているが、隣近所は勤め人か農業で在宅者が少なくコミュニケーションがとりたい。	○	周辺の人々とともに生きてゆくという地域密着型サービスとしての特色が生かされるよう根気よく近隣の人々に働きかけてゆくよう期待したい
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、地域の行事に積極的に参加したり、日常的に利用者が散歩して人々と声を掛け合ったり、独居高齢者をホームの昼食に招いたりして交流を図っている	○	認知症のサポーターづくりや、悠心彩における運動会で地区老人会と交流を計画するなどのさらなる取り組みを期待したい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	二つのユニットのそれぞれのホーム長の下、全職員で自己評価に取り組めるよう、文書の回覧やミーティングなどをこまめに行っている	○	自己評価、外部評価の結果を全職員のものとし改善に向けた計画的な取り組みを期待したい
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月毎の運営推進会議の議題を準備し、積極的に検討している。ヒヤリハットや事故報告書をもとに問題点などを話し合い、サービス向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の介護事業である地区の介護者の会で、管理者が助言者となるなど町の担当者とのネットワークが生かされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族へは、利用者の様子について定期的に文書を送り、家族の来訪時にも報告している。電話やメールなどでもしばしば連絡し合い、内容については、職員の休憩室のボードや連絡ノートでそれぞれの職員が確認合っている		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会では職員は席を外して話し合ってもらい、出た意見や要望は代表者から伝えてもらい、ミーティング等で話し合っている		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	デイサービスと二つのグループホームは隣接し、渡り廊下でつながっており、日々交流がある中での職員異動であり、2年半で各ユニット2人づつの異動と利用者へのダメージは最低限に抑えられている		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画が立てられており、職員は全員参加を目指して取り組んでおり、研修参加の報告会や復命書の活用がされている		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会に管理者が参加するとともに、グループホーム同士で職員の交換研修を計画しており、ケアの気づきや質の向上を目指すとともに職員同士の交流に取り組んでいる	○	グループホーム同士での職員の交換研修、交流を通じて、サービスの質の向上を期待したい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスの利用者からの入所や、家族本人の見学、体験入所など事業所での生活が安定するのを見極めてから利用に移行している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昼間の活動や、食事に関することでも、利用者同士で会話しながら、また、自然に役割をこなすなど、利用者と同様目線でふれあい、時間を過ごす様子がみられた		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、自然な会話や声かけから引き出した、利用者の思いや希望などを記録し、ミーティングなどで職員同士の気づきに役立てている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は職員全員の意見が反映されるよう、文書などで情報の共有がおこなわれており、本人、家族の意向も盛り込まれているが。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は利用者の状態の変化に応じて都度変更されており実情に即した内容になっているが、モニタリングを毎月するまでにはいたっていない	○	変化の兆しにも予防的に対応できる介護計画をめざして、いっそうの取り組みを期待したい。また、介護計画書の工夫改善とともに、モニタリングについての一ヶ月に一回の実施と記録を期待したい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や入退院の支援などは随時行っている。近隣の独居高齢者をデイサービスの昼食に招いて交流したり、足つぼマッサージを行ったり、独自に柔軟に利用者支援を行っている	○	利用者、家族の要望に応じた柔軟な対応を今後も期待したい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向にそったかかりつけ医に受診できおり、受診の同行も必要に応じて行われている	○	状況に応じて本人や家族が希望する医師による医療をうけられ、利用者、家族が満足できるように今後も継続した支援を期待したい
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したときの対応については、常々家族と話し合いを行っているが具体的な方針の共有までには至っていない	○	重度化や終末期に向けた方針の具体的な作成など今後いっそうの取り組みを期待したい
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者についての情報を他の利用者家族などに話さない、言葉の内容や語調にも常に気をつけるなど、尊厳を守る努力がみられる	○	パート職員も含めた全職員が、プライバシー確保について常に具体的な対応について話し合うような体制づくりを期待したい
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	裁縫や大正琴をしている人、ゆったりとたばこを楽しむ人、気のあった相手とおしゃべりに興じる人、テレビを見る人、外出する人などそれぞれの利用者に合わせて暮らしぶりがみられる		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が自然に配膳や、お茶を配るなどのあとで、穏やかに食事を楽しんでいた。梅の甘煮をめぐって、笑いや、会話が弾み、下膳や皿洗いも自然と行われていたが、全職員が同じ食事を摂るまでには至っていない	○	グループホームにおける「食事」を生活支援の柱として位置づけて頂き、全職員と一緒に同じ食事を食べられるような配慮を期待したい
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望する日や時間帯に入浴が行われている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や思いを受け止めた役割や楽しみごと、気晴らしなどの支援が個別に行われている	○	マンネリ化したり、職員主導の楽しみや役割にならないよう、利用者と話し合いながら行えるように期待したい
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	建物の周辺は芝生や畑などで、自由に出かけることが出来るようになっており、昼食後に買い物に行く人や、散歩、畑仕事をする人などに職員が寄り添っている		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関も中庭も廊下も外に向かって開放されており、施錠のない生活空間になっており、職員の見守り、近隣の人々からの協力も行われている		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のための訓練は定期的に行われており、避難場所も自治会と協力体制にあるが、非常用の備蓄は行われていない	○	非常用食料や生活用品などの備蓄についても今後も継続して取り組まれるよう期待したい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士が事業所の調理員の立てた献立や栄養について指導し、栄養バランスが考慮されている。水分量も個別に記録されており、体調が良好に保たれるよう支援されている		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関からフロアの飾り付けは利用者やゆかりの人の手作り品も多く、利用者の目を楽しませるものになっている。自然の採光や窓を開けて風を入れるなど、涼しく、いやなおいも感じられない工夫がされている		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の好みや家族の意見が取り入れられた家具や、道具が配置されているが、すべての部屋がフロアであり、作り付けのベッドが置かれておりやや画一的に感じられる	○	居室のづくりも、和室風や絨毯敷きなど利用者の自宅での生活の延長となれるような工夫を期待したい

1. 評価結果概要表

作成日 2007年8月27日

【評価実施概要】

事業所番号	3272100268
法人名	堀 建設株式会社
事業所名	グループホーム「悠心彩」
所在地	鳥根県鹿足郡津和野町日原262 (電話)0856-74-0351

評価機関名	NPOLしまね介護ネット		
所在地	鳥根県松江市白潟本町43番地STICビル		
訪問調査日	#####	評価確定日	平成19年8月30日

【情報提供票より】(平成19年 6月 20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 11 月 17 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	20 人
利用定員数計	18 人
常勤	5 人
非常勤	6 人
常勤換算	6.3

(2)建物概要

建物構造	木造造り平屋建て
	1階建ての、1階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,500 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	無し		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	償却期間 4年間
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 1000 円		

(4)利用者の概要(6月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	7 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	日原共存病院・増野医院・永田歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは自然に囲まれた地域のなかの「大家族」として、利用者、職員と地域住民が支え合う町づくりを目指している。隣接しているデイサービスや近隣の人々との交流などに、地域に開かれている印象を受けた。理念を常に想記しつつ待ちの姿勢で対応し、その人らしく生きていけるよう、日々研鑽に励んでいるホームである。2年半が経過した現在、利用者同士の暖かいふれあいや共同生活を実現しており、さらなる前進を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ケアサービスや介護の基本の実行などや運営体制について、職員の意見を反映し、研修を充実したり、町の事業に参画するなど改善に向けての意欲的な取り組みがみられる。「権利の明示」「食事を楽しむことのできる支援」などについてはさらに改善への取り組みを期待する
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者や計画作成担当者だけでなく、すべての職員の気づきや意見を日々のミーティングや定期会議で吸い上げ、自己評価としてまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者の生活ぶりをはじめとし、ケアの実際やヒヤリハット、事故報告書をもとに問題点をつまびらかにし、会議出席者との意見交換、向上に向けた取り組みがある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の普段の様子、また、変わったことなどを、常時、手紙や電話、メールなどで連絡をするとともに家族の意見も聞きやすい雰囲気の中で意見をきき、気づきや要望などについてはミーティングや定期会議で取り上げている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に参加し花見・文化祭・運動会に参加するだけでなく、悠心彩でも運動会を行っており、今後も老人会や子供たちとの交流も計画されている。